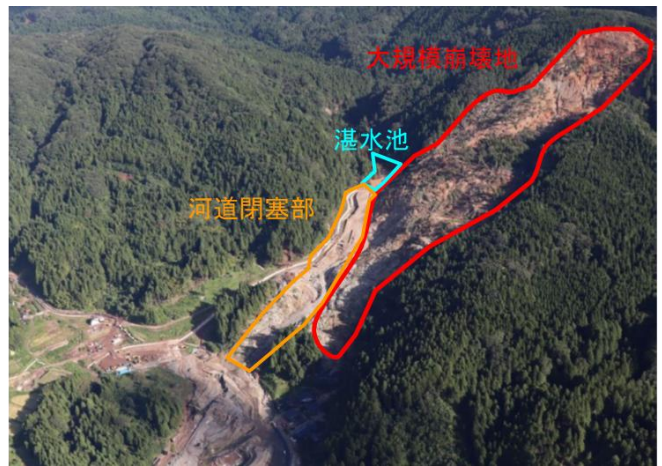


現場研修事業の概要

1 河道閉塞対策・能越道改築事業

- ・能越自動車道の起点となる「輪島IC（仮称）」に至る「輪島道路」は「のと三井IC」以北の第Ⅱ期工事を残すのみとなっていたが、能登半島地震により、トンネル施工予定箇所において起点側坑口部の地山が大規模に崩壊するなどの被害に見舞われた。
- ・大規模崩壊により河道閉塞（天然ダム）が発生したことから、河道閉塞の決壊防止と大規模崩壊地の再移動等を防止するための対策が進められている。
- ・なお、令和7年4月23日に北陸地方整備局から（仮称）鷹ノ巣山1号トンネル工事の着手が発表された。

…………… 輪島市市ノ瀬町



2 国道249号復旧事業（千枚田工区）

- ・令和6年能登半島地震で被災した国道249号沿岸部（千枚田工区）では、延長約800mにわたり道路上や一部道路下まで土砂が押し出され、地すべりブロックの背後には連続する亀裂が確認されるなど、道路に到達した崩壊土砂の量が10万㎡に及ぶ大規模な地すべり被害であった。
- ・現道と海岸の高さが近いこと、地震により隆起した海岸が路床として使用できる地盤であったこと等により、隆起した海岸を活用した前例のない応急復旧道路整備を行った。
- ・令和6年5月2日に、震災後初となる緊急車両、地元車両のみ交通開放を行い、令和6年12月20日に一般交通の2車線通行を確保している。

…………… 輪島市野田町



3 塚田川水系災害復旧事業

- ・能登半島地震から8ヶ月後の令和6年9月20日から22日にかけて、線状降水帯の発生により、能登半島に甚大な被害をもたらした「令和6年奥能登豪雨」では、輪島市の塚田川が氾濫し、住宅4棟が流される等の大規模な災害が発生した。
- ・国土交通省北陸地方整備局能登復興事務所では、令和7年7月に塚田川仮設堰堤の設置を完了した。それによって、8月10日からの大雨で流出した土砂・流木を仮設堰堤が捕捉し、下流域への土砂流出を抑制したことで、人家等への被害を防止した。
- ・その後、令和7年11月から本格的な復旧工事に着手している。

…………… 輪島市久手川町

